

優秀賞



給食の残しに対する意識を

六年 伊藤友美歌

私は、セウ浜をより良くするには、給食の食べ残しを減らせばいいと思います。なぜなら、今食品ロスが問題になっているからです。特に、給食が出ているのに残してしまうのはもったいないし、給食センターの人に申しわけないからです。私たちが小中学生だからこそできる取り組みを考えていく事が重要だと思います。

給食の食べ残しを減らすために私たちの学年は食品ロスについて授業をしてもらったり、毎日何が残しているかはかってグラフにまとめたり、最初に食べない量を減らしたり色々な対策をしました。他にどんな事ができるのか私と一緒に考えてみましょう。

給食を残す主な原因は、「きれいなものが出てくる」「量が多い」「時間が足りない」などです。

まず、「きれいなものが出てくる」と「量

が多い」の二つは、最初に食べない物の量を減らすことで解決できます。私の学年でもやっています。減らせるのはおかずだけです。パンやご飯も少なくもいい人同士で半分にしたらすればいいと思います。しかし、あまりおかわりをしないクラスによって、食べ残しが出てしまいます。そのため、食べ残しが多いうクラスは給食センターで最初からおかずの量を少なくしたり、一人一人パンやご飯を大中小から選べるようにしたりすれば急激に食べ残しが減ると思います。

次に、「時間が足りない」という問題は低学年によくあるなやみだと思います。足りない原因は、準備に時間がかかることや一口分の量が少ないからだだと思います。そのため、高学年の人が低学年のお手伝に行き、準備が終わったら一年生と一緒に食べるシステムをつくればいいと思います。

「この野菜もおいしいよ。挑戦してみよう。」などと言え、低学年の食べ残しは減ると思います。

ます。

そして、給食のことについて気づいた事や調べた事、自分の考えを作文やプリントなどにまとめ、自己発信していけばいいと思います。先生や代表が話すより自分で考えて言葉にしていって、の方が心に残りやすく、給食の大切さが実感できるからです。また、自分で考えて実行することですごく学習になり、食べ残しも減るので一石二鳥だと思います。

私は、給食の食べ残しを減らすのは一人一人の意識ですごく変わると思います。一人一人が給食に対して給食を残すのはもったいない、給食センターの人に申しわけない、私の食べ残しはポイ捨てと一緒になどの気持ちがある人もある人が増えれば食べ残しはもったもった減ると思います。他人事ではなく自分事としてとらえ、一口でも多く給食を食べてくれたらうれしいです。